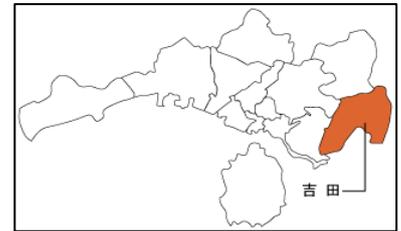


6-10.吉田地域

(1)地域の概要

本市の北部に位置し、周りを山々に囲まれ、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と丘陵部の住宅団地、山間部の農村集落地で構成されています。

人口は、約1万人で減少傾向にあり、老年人口比率が39.4%と市全体の平均を上回っています。



(2)緑に関する現況と課題

寺山から牟礼岡、赤崩に連なる山林や地域東部の花尾山や雄岳等の一団の山林、思川や本名川等の溪流やその周辺の良い農業生産環境を有しており、緑被率が82.3%と、市全体の69.2%を大きく上回っており、喜入地域や郡山地域に次いで、高くなっています。

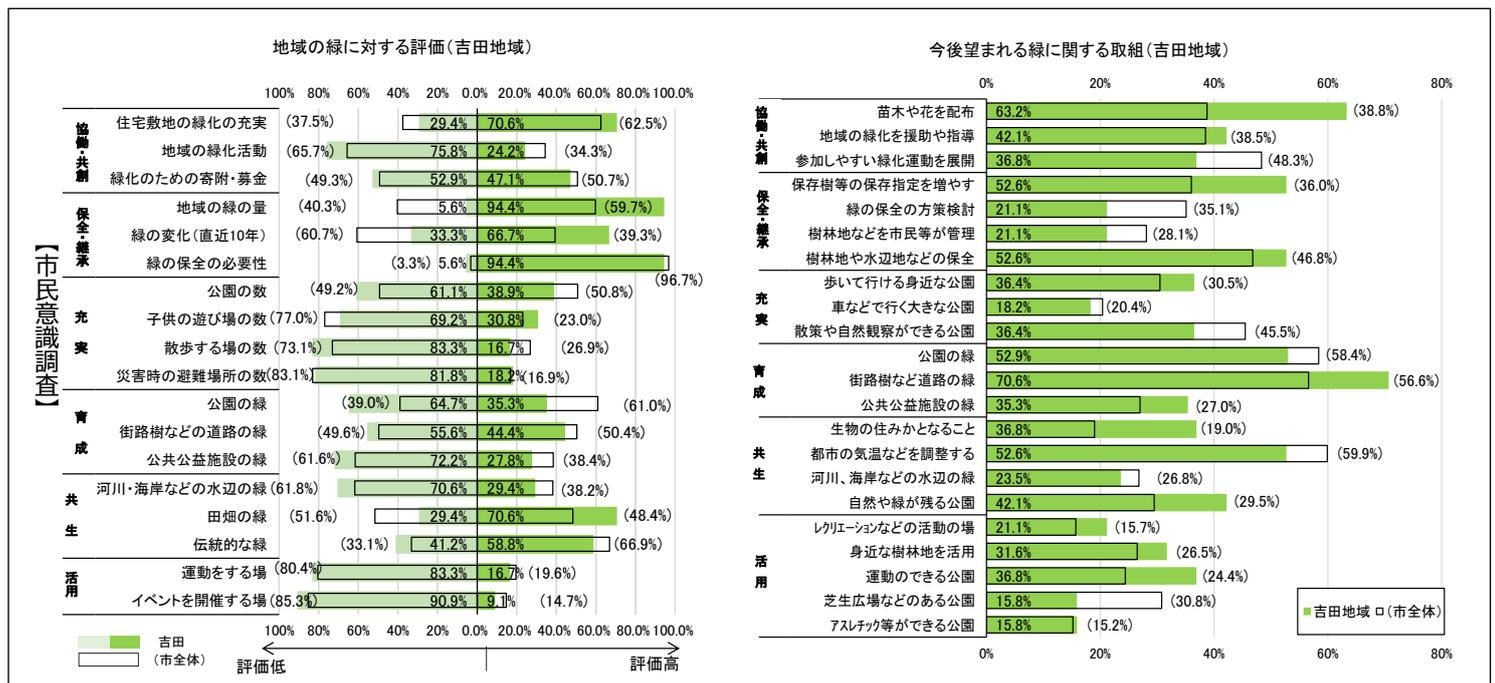
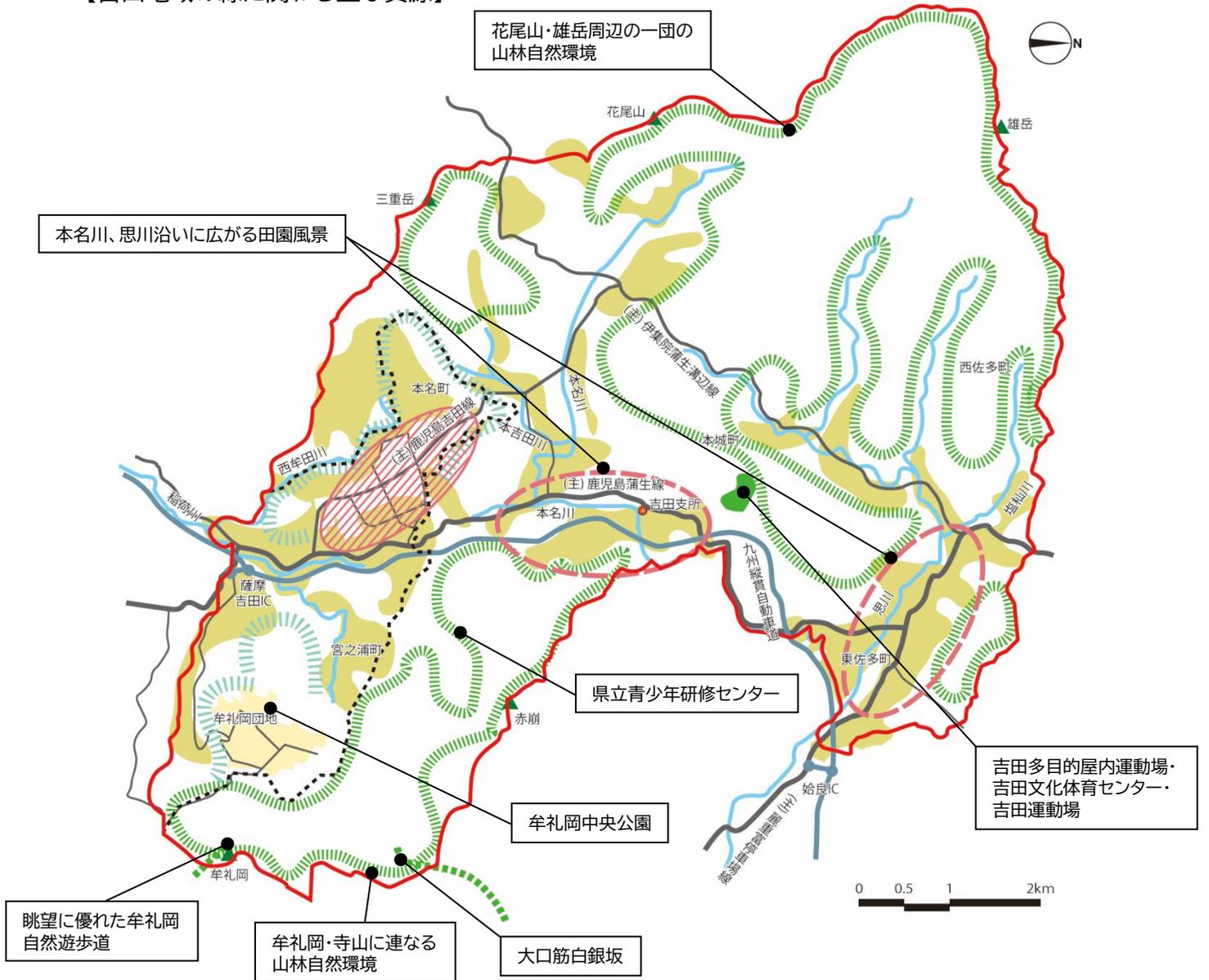
一方、地域内の都市公園は14箇所あり、1人当たりの都市公園面積は3.0㎡/人と、市全体の7.9㎡/人に比べ、非常に低い状況にありますが、都市公園以外の施設として吉田文化体育センターや吉田運動場、吉田多目的屋内運動場など、スポーツ・レクリエーションの拠点施設が整備されています。

市民意識調査結果をみると、「地域の緑の量」が多い、「緑の保全が必要」と考える市民の割合が高い一方、「地域の緑化活動」への参加意向は低く、「運動」や「イベントを開催する場」等としての公園・緑地が少ないと考えている市民の割合が高くなっています。また、「街路樹等の緑」の育成・創出や「苗木や花苗の配布」による協働の緑化の促進を望む市民の割合が高くなっています。

吉田地域の特徴的な結果としては、市全体と比べ、「地域の緑の量」や「田畑の緑」が多い、「直近10年の緑の量」が増えたと考える市民の割合や「公園の緑」の量が少ないと感じている市民の割合が20%以上高く、「公園の数」や「公共公益施設の緑」が少ないと感じている市民の割合が10%以上高くなっています。また、「保存樹等の保存指定を増やす」ことや緑が「生物のすみかとなること」を望む割合、「自然や緑が残る公園」や「運動のできる公園」を利用したい意向が、10%以上高くなっています。

これらのことを踏まえ、一団の山林自然環境や思川等の溪流、良質な水に育まれた農業生産環境を保全・活用するとともに、身近な緑の育成・創出や協働・共創による緑化の促進、調和のとれた公園・緑地の配置拡充やレクリエーション機能を有する施設を活用した交流の促進が必要であると考えられます。

【吉田地域の緑に関わる主な資源】



(資料) 第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープランの策定に関する市民意識調査(令和2(2020)年度)

(3) 緑に関する方針(吉田地域)

緑豊かな自然環境の保全・活用と吉田運動場等を生かした交流の促進

寺山から牟礼岡、赤崩に連なる山林等の豊かな自然環境を保全するとともに、それらの自然環境を生かしたグリーン・ツーリズムの推進や身近な緑を育成・創出するほか、市民等との協働・共創による彩り空間の創出や住民ニーズに応じた調和のとれた公園・緑地の配置・拡充、吉田運動場などを活用した交流の促進を図ります。

(4) 基本方針ごとの主な施策・事業

〈1. 協働・共創〉

- 花と緑の彩り活動の促進
- 公園愛護活動や街路樹愛護活動の普及拡大

〈2. 保全・継承〉

- 緑地保全制度の活用（河川区域、農業振興地域整備計画や森林整備計画に基づく取組、特定用途制限地域の活用及び開発許可の規模引下げの検討）
- 保存樹等の保護の推進（花尾神社境内等）
- 緑の維持・保全によるうるおいのある都市景観の形成等の推進
- 緑の維持・保全による防災・減災等の推進

〈3. 充実〉

- 緑のレクリエーション拠点の公園等の充実（吉田運動場）
- 公園・緑地のバリアフリー化等の推進
- 公園施設長寿命化計画の推進
- 地域の実情に応じた公園・緑地整備の推進（民有地等の借上げによる公園整備等）

〈4. 育成〉

- 民間施設の屋上・壁面緑化の促進と制度拡充の検討
- 街路樹及び公園樹の再生（質の転換）
- 公共施設の屋上・壁面緑化等の推進
- 学校校庭の芝生化等の維持・保全（本名小、牟礼岡小、吉田小、宮小、吉田南中等）

〈5. 共生〉

- 学校や地域における環境学習・環境教育の促進
- 自然観察の場の活用（牟礼岡自然遊歩道）

〈6. 活用〉

- グリーン・ツーリズムの推進
- 企業等による公園・緑地等の活用（吉田運動場）
- イベント等による公園・緑地等の活用（吉田運動場）

【吉田地域の緑の方針図】

